

# 一般質問

3月8、9、10日の本会議では、質疑13名、一般質問16名の議員が発言し、議案や市政全般にわたり活発な質問が行われました。(発言順に掲載)

目指すべくこれからの加西市政について



山下光昭 議員  
(無所属クラブ)

## 問

市内の人材活用と市内経済を潤す仕組みづくりについて、外からの知恵や力を排除、否定するものではないが、商工業者の生の声として、「市は物品購入の際、1円でも安ければ市内、市外の別なく選んでいる。なかで、市に税金を納めている地元の商業者が仕事が取れない現実がある。企業努力が足りないと言われれば仕方ないが、市長が言われている「物、人、金」が地元に戻るようにはしてほしいという切実な声がある。市場原理で安いものを選ぶのはいいようなことだが、地元経済を潤すシステム、人の活用を含めて税金を納めていただける方を大事にする市政が求められているのではないか。

## 答

入札に当たって市内業者をしっかりと使えということですが、市の基本的な姿勢としては、市内業者で調達でき

る物品等については市内業者を第一に考えています。入札に当たっては、その競争性、あるいは公平性、透明性も大事な要素ですが、市内業者に仕事をとっていただくのも市として非常に大きなウエイトを占めたポイントにあります。例えば、物品のうち事務用品等の調達については、年に一度市内業者に対して見積もり等の徴収をして、一番安いところとなります。物品等の市内業者への発注比率は60%前後ですが、その中には市内業者では対応しきれないものもあります。原則市内業者で調達可能なものは、市内業者で対応していただいています。

## 救急業務について



高橋佐代子 議員  
(21政会)

## 問

最近、救急車をタクシーがわりに利用する人や、差し迫った状況でないのに119番をする人もあると聞く。本来の救急車の役割が果たせず、

重症者の搬送に支障をきたしていることから、非常識な救急車の利用を食い止める手だてを考えなければならぬが、救急の現状はどうか。  
また、4月からの広域化で、救急体制など市民の関心が高いものはどのようなものか。



## 答

救急車の利用について、1,835件のうち軽傷者の搬送が873件と全体の50%です。救急医療週間、救急講習会等、機会あるごとに呼びかけています。消防職員が電話での出動可否を判断できないため、救急要請がかかればすぐに出動しています。現場でも診療科の判断を行いながら病院へ一報を入れ、指示をいただき搬送している現状です。  
広域化後の救急体制について、加西市は従来どおり消防署2隊、各分署1隊の4隊稼働を考慮しており、13台が配備されます。近隣市からも応援、出動でき、いま以上に救急体制は充実します。

加西球場の硬式野球対応について



別府直 議員  
(新政会)

## 問

加西球場を硬式野球対応にするために費用はいくらほどかかるのか。硬式野球に対応ができれば、プロ野球のオープン戦等を誘致したり、高校野球の予選を実施する等、やり方次第で加西球場の利用価値は大いにあるのではないかと。例えば県道にトンネルや屋根等で車等に被害がないような対応にすれば、費用も安くなるのではないかと。



アラジンスタジアム(加西球場)